

未来開拓講演シリーズ 第3回

気候変動による水・土砂災害に どのように対処するか

あなたのお祖父さまやお祖母さまが「最近の雨は激しいねえ。日本の気候はもっとおだやかだったのに。」などとおっしゃいませんか？
どうもそれは本当らしいのです。土木工学・水環境の研究がご専門の池田先生のお話を伺いましょう。

講師： **池田駿介氏** (東京工業大学名誉教授
(株)建設技術研究所研究顧問)

日時：2019年10月17日(木) 16:00～17:30

会場：お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ2階ホール

定員：120名(中高生対象、予約制)

申込：お茶の水女子大学広報担当

申込フォーム：<https://forms.gle/xNRBT1qhCkbpeUvo8>

近年、雨の降り方が変化し、それとともに洪水や土砂による災害が増えています。このような変化に対処する方法として、緩和策(炭酸ガスの排出を減らして温暖化を防ぐ)と適応策(施設の整備や情報提供・避難などによって災害を軽減する)があります。炭酸ガスの排出を今すぐ止めても、温暖化はすぐには止まらず、かなり長期間にわたって適応策を実施する必要があります。2015年にパリで開催されたCOP21会議では、気候変動を踏まえた防災・減災に関する取り組みが世界各国共通課題として採択されました。

我が国においても行政機関、学会、市民団体などによって様々な取り組みが進んでおり、水・土砂災害に対する適応策の基本的な考え方と実際の取り組みについてお話します。



小松利光氏(九州大学名誉教授)作成PPTより引用